第53回日本肺癌学会総会開催報告

The 53rd annual meeting report of the Japan Lung Cancer Society

会長 上岡 博 (国立病院機構山口宇部医療センター)

Hiroshi Ueoka (National Hospital Organization, Yamaguchi-Ube Medical Center)

それは2009年12月7日に受けた1本の電話から始まりました。「XがんセンターのAです。上岡先生に次の肺癌学会の副会長に立候補して頂きたいと考えてお電話しました。是非お願いします。」「ちょっと待って下さい。肺癌学会の副会長という大役は、地方の小さな病院の院長にすぎない私には荷が重すぎます。私は力不足ですので、辞退させて下さい。」「次は上岡先生にお願いしようということで、〇〇〇〇会メンバーの意見は一致していますので、どうしても引き受けて頂きたいと思っています。勿論、正式には理事会での選挙となりますが、私達が応援しますので大丈夫と思います。是非立候補して下さい。」「そこまで言って下さるのでしたら、お引き受けしないといけないと思いますが、私を次期副会長に推薦して頂くのは私個人を評価して頂いたのではなく、私が所属しております岡山大学の肺癌グループがこれまでに行ってきた研究成果を認めて頂いた結果だと考えますので、私個人としてではなく、岡山の肺癌グループとしてお引き受けしたいと思っています。それでよろしいでしょうか。」「オーケーです。」以上のようなやりとりの結果、どうしてもお断りすることが出来ず、立候補届けを提出することとなりました。その後はとんとん拍子に話しが進み、2010年2月19日の理事会で副会長候補に当選し、2011年2月24日の理事会で会長候補となり、11月2日の理事会、評議員会、総会で正式に会長として承認を受け、第53回日本肺癌学会総会を担当することが決まりました。

その後の準備としては、まず期日を2012年11月8日、9日の2日間、場所は岡山肺癌治療研究会の事務局がある岡山市とし、岡山コンベンションセンター、ホテルグランヴィア岡山、岡山市デジタルミュージアム、岡山全日空ホテルの4会場で行うことにしました。学会のプログラム作成にあたる企画委員会の委員長を岡

山大学病院呼吸器・アレルギー内科の木浦勝行教授にお願いし、学会事務局は山口宇部医療センターに置いて、事務局長は山口宇部医療センターの杉和郎前副院長(2011年9月に松本常男現副院長に変更)としました。2011年9月には理事、評議員の先生方にプログラムに関するアンケートを行い、その結果を参考にして、13名の委員(岡山大学からは木浦教授以外に腫瘍センター 田端雅弘准教授、呼吸器外科 豊岡伸一先生、呼吸器内科 堀田勝幸先生)からなる企画委員会を11月4日、2012年1月14日、3月24日の計3回開催し、プログラムの大枠を決めました。学会のメインテーマは「肺癌の克服に向けてー現状の解析と将来への提言ー」としました(写真1)。演題登録は4月4日から5月31日までに行いましたが、シンポジウムなどの指定演題を除く純粹の公募演題として過去最高の1,197題が登録されました。95名の査読委員による厳格な査読の結果、採択された演題は会長講演1題、特別講演1題、シンポジウム27題、ワークショップ96題、プレナリーセッション4題、教育講演16題、肺癌登録合同委員会報告1題、篠井・河合賞受賞講演2題、ビデオセッション47題、一般口演550題、ポスター505題に加えて、外国人招待者による Invited Lecture 3題、世界肺癌学

The 53rd Annual Meeting of the Japan Lung Cancer Society
第53回日本肺癌学会総会

山口宇部医療センター

会期:2012年11月8日(木)・9日(金)
会場:岡山コンベンションセンター
ホテルグランヴィア岡山
岡山市デジタルミュージアム
岡山全日空ホテル
会長:上岡 博 (国立病院機構
山口宇部医療センター院長)

岡山後楽園 in OKAYAMA

【テーマ】
肺癌の克服に向けてー現状の解析と将来への提言ー
[URL] <http://www.med-gakkai.org/jlcs53/>

写真1 第53回日本肺癌学会総会のポスター

会 (IASLC) との Joint Symposium 6 題, 韓国肺癌学会 (KASLC) との Joint Symposium 4 題, Clinical Science Symposium 3 題, Young Investigators Symposium 3 題の計1,269題でした。

11月7日 (水) からいよいよ本番となり, 午前中に30の各種委員会が開催され, 午後には理事会, 評議員会が行われました。そして夜にはホテルグランヴィア岡山で, 240名にご出席頂き評議員懇親会を盛大に開催しました。私の開会挨拶と中西洋一日本肺癌学会理事長のご挨拶に続いて, いずれも私の恩師である愛知県がんセンター名誉総長の小川一誠先生, 近畿大学名誉教授の福岡正博先生, 岡山大学医歯薬学総合研究科長の谷本光音先生 (写真2 a) にご祝辞を頂き, 岡山大学前教授 (九州大学前教授) の原田実根先生 (写真2 b) による乾杯にて賑やかな懇親会が行われました。岡山大学からも名誉教授の平木祥夫先生, 清水信義先

写真2 a. 谷本光音先生のご祝辞, b. 原田実根先生のご乾杯のご発声

写真3 上岡 博による開会の挨拶

生, 中田安成先生, および片岡幹男教授をはじめとする多数の教官にご参加いただきました。また, 名誉会員, 特別会員の先生も多数ご参加下さいましたので, 旧交を温めて頂くとともに, 岡山の夜を楽しんで頂けたと思います。

11月8日 (木) は, 朝8時40分に第1会場における私の開会挨拶 (写真3) で学会第1日目が始まりました。第1会場では, 最初に「肺癌の克服に向けて—現状の解析—」という本学会のメインテーマに基づく前半のシンポジウムを行いました, 学会の先陣を飾るに相応しい活発な討議が行われました。続いて福島県立医科大学副学長の山下俊一先生による「福島原発事故と放射線健康リスク管理」という東日本大震災を教訓とした特別講演が行われました。午後には, 私が「肺癌診療における岡山グループの役割—過去, 現在, 未来—」というタイトルで会長講演を行い, 木村郁郎名誉教授と大熨泰亮先生が立ち上げられた岡山大学第二内科を中心とする岡山肺癌グループの業績を創設期から, 体制確立期, 発展期の3期に分けて解説し, 今後目指すべき方向などをお話しさせて頂きました。続いてプレナリーセッションにおいては, 査読委員会が選んだ最優秀の4演題が報告され, 1,200名を収容できる会場を埋め尽くす多数の聴衆の中, メインテーマである肺癌の克服に向けて喧々諤々の議論が行われました (写真4)。また, 「肺癌診療における国際協力」のシンポジウムでは, グローバル時代において日本肺癌学会の果たすべき役割に関して討議されました。今回第8会場では, 肺癌学会で初めての試みとして, 海外に留学中の若手研究者3名に, 海外での研究生活, 研究成果を報告して頂く Young Investigators Symposium

写真4 プレナリーセッションの会場

を行いました。国内で頑張っている若手研究者にとって有意義なセッションになったと考えています。夜には、岡山全日空ホテルで会員懇親会を行い、約300名の会員にご出席頂きました。お酒が全く飲めない木浦勝行教授の乾杯（写真5）で始まり、約2時間楽しい会が続き、会員の親睦が大いに深まったと思います。

11月9日（金）は、第1会場では、「進行肺癌化学療法の最前線」、「分子標的治療の最前線」という二つのシンポジウムが行われましたが、いずれも大変好評で、活発な討議が行われました。また、岡山大学呼吸器外科の豊岡伸一先生が「胸部悪性腫瘍における分子生物学的異常の解明と治療への応用」というタイトルで篠井・河合賞受賞講演をされました。午後には、「肺癌の克服に向けてー将来への提言ー」という学会メインテーマの後半部分であり、本学会の総仕上げとなるシンポジウムが行われましたが、最後まで熱心な討議をして頂き、肺癌診療の進歩につながる素晴らしい議論が出来たと考えております。

第2会場では、2日間を通じて、外国人講演者による Invited Lecture, IASLC との Joint Symposium, KASLC との Joint Symposium, Clinical Science Symposium など、英語での発表が行われました。残念ながら会場は満席にはなりませんでした。世界に発信できる素晴らしいディスカッションが出来たようです。また、本学会では肺癌の診断、治療から緩和医療、予防に至る多くのテーマに関して17のワークショップが行われましたが、特に「EGFR 遺伝子変異陽性肺癌に対する治療戦略」、「ALK 融合遺伝子陽性肺癌に対する治療戦略」という最近注目されているテーマを取り

上げたワークショップでは、会場に入れない人が出るほど盛り上がりました。さらに、第6会場では、2日間で16の教育講演が行われましたが、700席の会場は常時ほとんど満席状態で、若い研究者の知識向上に寄与できたのではないのでしょうか。岡山市デジタルミュージアムでは、ポスター発表が行われましたが、発表時には通路を歩けないほど多くの聴衆が集まり、活気にあふれた討論が行われていました。

全ての演題が終了した後、18時10分から第1会場で閉会式を行いました。最初に中西理事長より私に日本肺癌学会の感謝状が授与されました。前もって知られていなかったため、大変驚きましたが、じっくりとうれしさがこみ上げてきました。その後最後まで参加して下さった皆様に私から感謝の言葉を述べさせて頂き、来年東京で開催される第54回日本肺癌学会総会での再会を約束して閉会とさせて頂きました。

本学会の参加者数は、米国本土を襲ったハリケーンの影響と急な病気のため2名の外国人が来日できませんでしたが、外国人招待者12名を含め、総数3,128名となり、これまでで最高の人数になりました。岡山市という地方での開催にもかかわらず、このように多数の皆様にご参加頂きましたことを主催者として大変感謝するとともに、誇りに思っております。

11月10日（土）には、岡山県健康づくり財団附属病院長の西井研治先生のお世話で、第27回肺がん集検セミナーが岡山コンベンションセンターで開催されました。参加者は100名で、「死亡率減少に寄与する肺癌検診を目指して」というテーマのもと、既存の肺癌検診制度の効率化と精度管理の向上、胸部CT検診の被曝線量管理などが討議されました。また、同じくコンベンションセンターにおいて、「肺がんをなおす」というタイトルで市民公開講座を開催しました。京都大学呼吸器外科教授の伊達洋至先生に外科医の立場から、岡山大学呼吸器・アレルギー内科教授の木浦勝行先生に内科医の立場から肺癌の撲滅に向けた最新の試みをわかりやすく講演頂きました。230名の方にご参加頂き、講演後には有意義な討議が行われました。

最後になりますが、浅学非才の私がこの学会を成功裡に終えることが出来たのは、企画委員長をお努め頂いた木浦勝行教授、会長講演の司会をして頂いた谷本光音教授をはじめとする岡山大学第二内科の皆様、企画委員として外国人の招請にご尽力頂いた岡山大学第二外科の豊岡伸一先生と三好新一郎教授、事務

写真5 木浦勝行先生の乾杯のご発声

局にて諸事万端を見事にこなして頂いた松本常男副院长をはじめとする山口宇部医療センターの皆様、および岡山肺癌治療研究会の皆様の全面的なご協力の賜と思っています（写真6）。学会会期中は素晴らしいお天気に恵まれました。「晴れの国岡山」で開催して良かったと思うとともに、岡山大学医学部の底力を実感した4日間でした。ご協力頂きました全ての皆様、本当に有り難うございました。

写真6 学会を支えて頂いたメンバー：前列中央が上岡 博，右となりが木浦勝行先生，左となりが日本肺癌学会理事長中西洋一先生